

茶園のDX化により実現したカーボンニュートラルなお茶の活用について

この度、当社は、当社グループのみらい株式会社（本社：広島県広島市、代表取締役社長：妹尾 暁、以下「みらい」）が業務委託契約を締結したBlue Farm株式会社（本社：静岡県浜松市、代表取締役社長：青木 大輔、以下「Blue Farm」）が販売するカーボンニュートラルなお茶を導入いたします。



Blue Farm
Make society healthy



SAAF
Support As A Foundation.

Blue Farmは、「社会を健康にする会社」をビジョンとして掲げ、山間地の茶園のDX化により、環境価値を顕在化させ、企業のサステナビリティ対応を促進するお茶栽培環境提供事業を実施しています。みらいが持つ、地域の第一次産業（農業・林業・水産業）振興支援、個別経営体の経営支援等のソリューションサービスを活かし、地方自治体との連携等更なる展開を進めています。

2024年3月に静岡県経済産業部農業局お茶振興課が発表された「静岡県茶業の現状」によると、中山間地域の茶栽培面積は2015年から2020年の5年間で27%の減少、茶販売農家数は同期間で39%減少しています。更に、海外情勢や円安の影響により、燃料や資材、肥料等の価格が高騰し、茶生産はより一層厳しい状況です。

これまで茶園が持つ森林効果による炭素吸収量や窒素肥料による炭素排出量を正確に測定がされたことがなく、緑茶栽培がカーボンニュートラルに適しているか不透明でした。Blue Farmは、茶産業の再生と「茶園のデータ化による環境価値の顕在化」を目指し、生産者への入力アプリ提供と茶園へのセンサー設置等の農業IoTを活用することで、炭素排出量の測定が実現しサステナブルな事業を創出しました。また、Blue Farmは、有機JAS認証※を取得しております。有機JASでの農法を実施することにより、温室効果ガスの発生原因である肥料を減らすことが出来ます。更に、農薬を使わないため、茶園の環境が守られ生物多様性の確保に役立ちます。カーボンニュートラルなお茶の栽培の実現により、企業のサステナビリティ対応の一助となり、茶園に従事する生産者の廃業や耕作放棄地の解決を目指しています。

※有機JAS認証は使用禁止資材を全く使っていない農地での栽培等を満たした農産物・加工食品について、登録認証機関が検査を行い、認証された事業者が有機JASマークを付せる制度です。

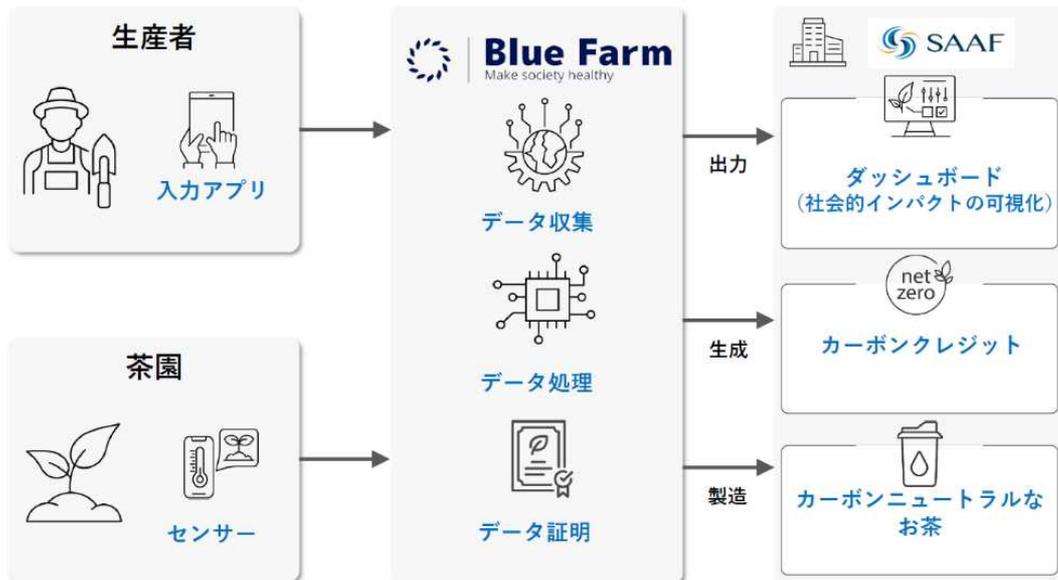
当社は、カーボンニュートラルなお茶の導入を機に、従業員やご来社されるお客様がお茶を通じてサステナビリティな社会を考える新たなきっかけの1つとしたいと考えており、持続可能な地域社会の実現に向け、更なる企業価値向上に努めてまいります。

【本プレスリリースに関する問い合わせ】

SAAFホールディングス株式会社 URL: <https://www.saaf-hd.co.jp/> IR担当: 森島・山本

Tel. 03-6770-9970 Fax. 03-4363-1154

<システムイメージ>



■Blue Farm 株式会社 (<https://blue-farm.co.jp/>)

■本リリースの問い合わせ先：

みらい株式会社 (<https://go-mirai.jp/>)

担当：高石

MAIL：kyohei.takaishi@go-mirai.jp

【本プレスリリースに関する問い合わせ】

SAAF ホールディングス株式会社 URL: <https://www.saaf-hd.co.jp/> IR担当: 森島・山本

Tel. 03-6770-9970 Fax. 03-4363-1154